

大学体育養生学研究会

第17号



- ▷ 巻頭言
- ▷ 第二期新役員紹介
- ▷ 2002年度収支決算書
- ▷ 2003年度中国海外研修会について
- ▷ コラム「養生学」

事務局：東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX・03-3396-9996（問い合わせ受付）

本会のモットーは「共生原理」

養生学研究に期待する

大学体育養生学研究会

会長 清水 司

大学体育養生学研究会が、二期目に入り多くの優れた人びとのご協力を得て、新役員、運営体制がより強固なものとなり、一層の活躍が期待されることは、誠に有り難いことであります。これも横沢理事長をはじめ会員の皆様の熱意に共感する多くの方々のお蔭と、誠に心強いことであります。

20世紀の科学技術の進歩は誠にめざましいものがありました。その恩恵に浴したのには、世界の人口の約20%程度で、富める国と貧しい国との格差は益々拡大し、また、文明病ともいえる多くの歪みを社会にもたらしました。特にわが国でその歪みが極めて大きく、私どもはその克服に努力しなければなりません。

横沢理事長が「頭のなかだけで考えることばかりに重きがおかれ、からだで学ぶこと、からだで覚える知恵や原理を忘れていくようです」（ニュースレター15号）と言われていることは今日のわが国の教育界で大いに問題にしなければならないことだと思います。

19世紀末から20世紀にかけて活躍したフランスの哲学者ヘンリー・ベルグソンが、物事を理屈だけで考え問題を解決しようとする知識優先の主知主義に

反対し、体験や直観の重要性を指摘し、体験主義、直観主義を唱えたことは有名ですが、明治以来欧米先進国にならい学校制度をとり入れたわが国では、特に戦後、主知主義にはしり、多くの歪みを残してしまったといえます。

近年、このことに気づき「生きる力」とか「人間力」の育成をと、文科省も「教育の構造改革」にとり組みはじめましたが、いまひとつといったところ です。

初等中等教育から大学まで、一人ひとりの個性、能力に応じた適切な人間教育、人間力教育が行われて、はじめて21世紀という新しい時代を切り拓くことのできる日本人が育てられるのだと思います。

養生学研究が、こうした教育改革に大きく寄与し得るものと確信し、期待しています。

プロフィール

東京家政大学学長・社団法人全国大学体育連合会長・工学博士・文化功労賞受賞。厚生省中央児童福祉審議会委員・文化庁国語審議会会長・中央教育審議会会長・早稲田大学総長等を歴任。

第二期・新役員

— ご 紹 介 —

第二期の新役員構成が下記のように決まりました。任期は2003年4月1日からの3年間です。

- 会 長 清水 司・東京家政大学学長
- 副 会 長 鎌田 章・神奈川大学教授
- 副 会 長 田中 朱美・東京女子医科大学教授
- 顧 問 青木 宏之・新体道会長
- 顧 問 渥美 和彦・日本代替・相補・伝統医療
連合会議理事長
- 顧 問 小木曾 友・アジア学生文化協会理事長
- 顧 問 帯津 良一・帯津三敬病院名誉院長
- 顧 問 伊藤 順藏・早稲田大学名誉教授
- 顧 問 片倉 道夫・大阪府レクリエーション協
会専務理事
- 顧 問 片岡 暁夫・国土館大学大学院教授
- 顧 問 坂出 祥伸・関西大学教授
- 顧 問 立川 昭二・北里大学名誉教授
- 顧 問 春木 豊・早稲田大学名誉教授
- 顧 問 宮地 貫一・衛生通信教育振興会理事長
- 顧 問 森 昭三・びわこ成蹊スポーツ大学学長
- 顧 問 湯浅 泰雄・桜美林大学名誉教授
- 顧 問 養老 孟司・東京大学名誉教授
- 顧 問 吉崎 勇・東京YMCA副総主事
- 顧 問 吉元 昭治・吉元医院院長
- 理 事 長 横沢喜久子・東京女子大学教授
- 常任理事 跡見 順子・東京大学大学院教授
- 常任理事 天野 勝弘・関東学園大学教授
- 常任理事 池垣 功一・東京理科大学教授
- 常任理事 池田 裕恵・東洋英和女学院大学教授
- 常任理事 遠藤 卓郎・筑波大学教授
- 常任理事 太田 正和・岡山理科大学教授
- 常任理事 久保 隆彦・明治学院大学教授
- 常任理事 谷 祝子・神戸女学院大学教授
- 常任理事 張 勇・長野県短期大学助教授
- 常任理事 伴 義孝・関西大学教授

- 常任理事 美馬美千代・上智大学教授
- 常任理事 宮本 知次・中央大学教授
- 常任理事 和田 勝・日本大学教授
- 理 事 池田 克紀・東京学芸大学教授
- 理 事 石原 泰彦・日本武術太極拳連盟理事
- 理 事 伊東 秀子・札幌弁護士会
- 理 事 梶野 克之・獨協大学教授
- 理 事 久保 鉄男・岡崎国立共同研究機構
- 理 事 桑名 信匡・横須賀北部共済病院院長
- 理 事 琴坂 延洋・ハケ岳アウトレットモール
取締役
- 理 事 小宮山 昭・建築家
- 理 事 小林 勝法・文教大学助教授
- 理 事 近藤 洋子・国際基督教大学
- 理 事 佐野 信子・弘前大学専任講師
- 理 事 白石 安男・東京理科大学助教授
- 理 事 白木 悦子・宮城学院女子大学教授
- 理 事 瀬戸 謙介・明治学院大学・瀬戸塾
- 理 事 鈴木 秀明・珠光院住職
- 理 事 都倉 雅代・常磐会短期大学教授
- 理 事 外山恵美子・心とからだの研究会主宰
- 理 事 長谷川洋三・日本経済新聞社論説委員
- 理 事 平野 卿子・ドイツ文学翻訳家
- 理 事 古川 文隆・日本ウエルネス協会専務理事
- 理 事 増田 勝・太極拳実践研究家
- 理 事 南 隆明・ホテルグランヴィア大阪取
締役社長
- 幹 事 石水 極子・光風霽月・極の会
- 金田 洋子・心と体のストレッチ茶・茶・茶
- 片桐 宏子・東京英和女学院大学
- 園部 真里・東京女子大学

事務並びに事務局について

本会の事務は、幹事の4名「石水極子・金田洋子・片桐宏子・園部真里」が、理事長「横沢喜久子」とともに、担当いたします。引き続きよろしくお願ひします。なお、事務局も引き続き東京女子大学文理学部「横沢研究室」におくことになりました。

常任理事会
— ほうこく —

2003年5月10日に東京女子大学において第二期の「役員構成」などの原案づくりのために常任理事会を開催しました。なお、同常任理事会で2002年度「会計決算」を審議し、監査（和田勝・美馬美千代）を経て、本会ニュースレターで公開することを2002年度総会（2003年3月8日開催）で決定していましたので、本号で書面報告することになります。

議 題

- (1) 2002年度会計決算について
- (2) 図書刊行について

ニュースレター前号「報告」のとおり本会編集の『からだの原点・21世紀（養生学）事始め』を刊行しました。2003年4月10日発行。本体2000円。市村出版。

(3) 第二期役員新体制について

ニュースレター本号「2頁」の「役員紹介」のとおり原案を作成し選挙管理委員会によって所定の手続きを経て決定するに至りました。

(4) 第二期の基本方針について

- ① 学術団体登録
- ② 「ようせい体操」の創作
- ③ 組織の拡大
- ④ 会活動の促進
- ⑤ ホームページの充実
- ⑥ 研究誌の充実
- ⑦ 研修会の充実

(5) 第二期「運営体制」について

大学体育養生学研究会・2002年度収支決算書

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで (単位) 円 (監事: 和田 勝 印・美馬美千子 印)

支 出		収 入	
費 目	決 算 額	費 目	決 算 額
運営費		会費収入	3 1 6 0 0 0
①会議費	8 9 6 7	大学体育連合助成金	1 0 0 0 0 0
②賃金	1 3 8 6 7	参加費等	1 4 0 0 0 0
③印刷製本費	4 4 9 9 8	前年度繰越金	6 1 6 5 6 2
④通信費	9 5 7 3 0		
⑤消耗品費	3 7 3 9 9		
⑥交通費	2 2 0 0 0		
⑦借料	0		
⑧広告宣伝費	2 8 3 5 0		
⑨慶弔費	0		
⑩雑費	1 0 5 0		
事業費			
①会誌発行・第5号	1 8 7 3 7 2		
② 海外研修会助成	1 0 0 0 0 0		
③その他	0		
小 計	5 3 9 7 3 3		
次年度繰越金	6 3 2 8 2 9		
合 計	1 1 7 2 5 6 2		1 1 7 2 5 6 2

全国大学体育連合研究発表について

— ポスター発表の募集 —

内容 「個性ある体育教育の展開」に関して
期日 2003年8月26日・09:00-11:30
会場 東京・早稲田大学

上記に関して、全国大学体育連合から本会へ、「ポスター発表者」の推薦依頼がありました。発表申込期限が「7月25日」になっています。「発表申込」に関してご関心のある方は、詳細について、本会事務局へお問い合わせください。打合せのうえ「本会代表発表」として申込手続きを本会でとらせていただきます。

2003年度中国養生法海外研修会

— 開催いたしません —

本年度の恒例夏期海外研修会は諸般の事情で開催いたしません。ご了承ください。なお、国内研修会として関連研修会の開催を検討しております。追ってお知らせします。

全国大学体育連合夏期中央研修会

2003年8月24日～26日の間に標記研修会が開催されます。本会の跡見順子常任理事の講演「運動を通して自分を知るサイエンス授業」（25日プログラム・会場：東京大学教養学部）もあります。本会会員も、ふるってご参加ください。

大学体育養生学研究会編

『からだの原点：21世紀〔養生学〕事始め』
好評発売中・180頁・本体2000円・市村出版

ようせい

コラム「養生学」

去年の今日、あなたの身体を作っていた分子のうち、何パーセントが今年の今日、残っているか。それを考えたことがありますか。現代人にはそう尋ねたい。小腸の上皮であれば、三日ほどで入れ替わってしまう。代謝の遅い骨ですら、1年間ではかなり入れ替わっているだろう。いちばん治りの遅い大腿骨の骨頭の骨折でも、治るのはひと月の単位である。それなら「私は私、同じ私」と思っている現代のあなたより、鴨長明のほうがはるかに実態を理解していたことになる。「行く川の流れ」、それが人だと長明が喝破したからである。現代人のどれくらいが、自分を「行く川の流れ」だと、日常的に思っているであろうか。川はいつでもそこにあるように見える。しかし、それを作っている実体である水は、たえず入れ替わっているのではないか。では変わらない川、いつもそこに存在するものとしての川とはなにか。それは情報である。情報化社会の人、つまり現代人は、なんと自らを情報だと規定する。情報はそれ自体は変化しないという特徴を持つからである。なぜか。「同じ」私だからである。同じものが変わるはずはないじゃないですか。だから身体がわからなくなる。身体は『変身』の世界、実体の世界に属するからである。（養老孟司・「からだの自然」・本会編『からだの原点・21世紀〔養生学〕事始め』所収・市村出版）

第二期発足懇親会の開催

2003年8月23日（土）17時頃開催・会場未定・追って本会役員の皆様にご通知いたします。

大学体育養生学研究会事務局

〒167 8585 東京都杉並区善福寺2 6 1
東京女子大学文理学部・横沢研究室内
FAX 03 3396 9996